

2013年1月24日

総本山 仁和寺  
恵澤山 龍寶寺  
住友林業株式会社

## 総本山仁和寺(にんなじ) 御室桜(おむろざくら)研究プロジェクト “名勝 御室桜” 組織培養苗を東北地方へ試験植栽 ～ 東北復興と御室桜の成長を祈願 ～

真言宗御室派 総本山仁和寺(門跡：南 揚道、京都市右京区 以下、仁和寺)は、住友林業(社長：市川晃 東京都千代田区)ほかと2007年4月に御室桜研究プロジェクトを発足させ、御室桜の成長調査、土壌・根系調査、組織培養による苗木の増殖、DNAによる品種調査等の調査研究を実施しています。

2010年1月に住友林業はバイオテクノロジーの一手法である組織培養による苗木の増殖に成功し、2012年2月には植栽可能な大きさに成長した御室桜の培養苗の第一号を仁和寺へ里帰りさせ境内に植栽しましたが、このたび全国各地の試験植栽による調査を開始するにあたり、仁和寺の所属寺院である恵(けい)澤山(たくさん)龍(りゅう)寶寺(ほうじ)(住職：菅原(すがわら) 智道(ちどう) 仙台市青葉区)での植栽を行い、東北復興祈願、御室桜調査プロジェクト成功を祈願する法要を行う運びとなりましたのでお知らせいたします。

### 御室桜研究プロジェクト

2007年4月、その美しい景観を維持管理することを目的に仁和寺が京都府文化財保護課および各行政機関と協議の上、千葉大学園芸学部、住友林業グループと共同で発足させた研究プロジェクトです。

貴重な御室桜を後世へ引き継いでいくためには、遅咲きであることや人の背丈ほどにしか成長しないことなど、その成長に謎が多い御室桜の生態を解明し、その科学的知見を基にした管理技術を開発することが必要です。組織培養で増殖した苗は、全てが同一の形質であることから、異なる土壌や気象条件の場所で育てることにより、木の高さ(樹高)が大きくなる原因を解明することができると考えられ、仁和寺、住友林業グループの関係地及び東北地方の小中学校への植栽を開始しました。御室桜が仁和寺以外の場所で植栽されるのは今回が初めてのこととなります。

### ■試験植栽概要

仁和寺の境内中門をくぐると左手に広がる“名勝 御室桜”は、株立ちで人の背丈ほどまでにしか成長しないため、目の高さで花見ができるという特徴があります。正保3年(1646年)に行なわれた伽藍再建の際に植えられたと伝えられているものは、既に樹齢360年を超えると考えられ、樹勢の衰えが顕著となっており、枯死の危険性が危惧されていました。

組織培養により増殖した苗は、材料を採取した木と同一の形質となるため、土壌や気候が同じ場合には、同じように成長すると考えられます。また、過去に実施した仁和寺境内の土壌調査において、御室桜が育っている場所の土壌は、植物の成長に必要な栄養素(炭素、窒素、リンなど)がほとんど含まれていない粘土質の土壌であると解明されています。そのため、増殖した苗を園芸土壌のような良質な土壌に植栽した場合と粘土質の土壌に植栽した場合を作り、その成長を比較観察することにより、樹高が高くなる成長の要因が土によるものなのか、あるいは木そのものもつ特徴なのか、あるいは両者の関係によるものなのかを解明できると予想しており、貴重な御室桜を保護育成していく上で重要な検証が可能となります。また、全国各地で同様な試験植栽を行うことにより、気象条件による影響を検討できるとともに、御室桜の南限と北限も推定できると考えております。

植栽は仁和寺境内ほか、仁和寺の関係機関および住友林業グループの管理地がある宮崎県、愛媛県、岐阜県、茨

城県、北海道等の各地で進めており、東北地方においては各市町村の教育委員会など関係機関と相談のもと、復興応援の意味も込めて主に被災地の小中学校と共同で御室桜の培養苗を植栽し、育成・観察を進めていきます。

### 希望の桜プロジェクト

東北地方で進める試験植栽のうち、被災地の小中学校で植栽を行う場合には、特に“希望の桜プロジェクト”と名づけ、生徒の皆さんと共同で御室桜を育成していく予定です。貴重な桜を育てる取り組みを通じて、歴史を継承する意義や組織培養という最先端の科学に触れることができるとともに、御室桜が成長していく姿を通して、明日、そして未来を考えるきっかけになればと考えています。今回植栽した苗木が桜の花をつけるのは、早ければ2015年の春頃と想定しています。

#### <植栽・観察要領>

- ・各植栽地には1～6本の植樹を行う。
- ・小中学校においては、土壌に改良を施し仁和寺の土壌に似た粘土層を再現して苗木を植栽した場合と、土壌に処理を施さず、そのまま現地に植栽した場合との異なる二種の土壌で苗木を育てることで、成長の違いを観察しながら育成していくとともに、試験植栽期間として設けている植栽後5年間は、苗木の樹高、幹回りの太さ、花芽の付き方など定期的な観察を通し、土壌の違いによる成長の違いが見られるのか、生徒の皆さんに観察いただき、観察レポート等を作成していく。

#### ■主な植栽地

- ・真言宗御室派 総本山 仁和寺（京都府京都市右京区）
- ・真言宗御室派 恵澤山 龍寶寺（宮城県仙台市青葉区）
- ・住友林業グループ関係地（愛媛県新居浜市・茨城県つくば市・北海道紋別市）
- ・東北地方小中学校  
岩手県大槌町立吉里吉里小学校（岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里）  
宮城県石巻市立住吉中学校（宮城県石巻市東中里）  
宮城県名取市立増田中学校（宮城県名取市増田字柳田） 以上8ヵ所に植栽済  
(2012年12月末現在)

#### <植栽予定>

- ・住友林業グループ関係地（宮城県日向市）
- ・東北地方小中学校  
宮城県立女川町立女川第一中学校（宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原）  
今後も東北地方の小中学校や公園に植栽していく予定です。

#### \*真言宗御室派 総本山 仁和寺

仁和寺の歴史は仁和2年（886年）第58代光孝天皇によって「西山御願寺」と称する一寺の建立を発願されたことに始まります。しかし翌年、光孝天皇が崩御し、第59代宇多天皇が先帝の遺志を継いで、仁和4年（888年）に完成。寺号も元号から仁和寺となりました。中門内の西側一帯に「御室桜」と呼ばれる遅咲きで有名な桜の林があり、江戸時代のころから親しまれ、多くの和歌に詠われており、大正13年(1924年)に国に名勝に指定されています。また、平成6年（1994年）には「古都京都の文化財」としてユネスコの世界遺産に登録されました。（参照：仁和寺HP）

#### \*真言宗御室派 恵澤山 龍寶寺

文治年間（1186年）伊達家の祖朝宗公が再興して自家の祈願寺とした寺。古くは奥州鎮守府の将軍坂上田村麻呂の鐘銘により平安期に創建されたものと推察されています。維新前までは大崎八幡の別当寺をつとめていた寺

で、本尊の木造釈迦如来像は、国の重要文化財に指定されています。（参照：龍寶寺縁起）

＊住友林業（株）筑波研究所

木の総合的な活用を目指し、広く研究開発を進めていくことを目的に1991年に茨城県つくば市の「筑波研究学園都市」に設立。「木質資源分野」・「建築住まい分野」の観点より、素材としての木の可能性を探求し、魅力ある住宅用木質材料の研究、資源の有効活用、快適な住環境の研究開発など循環型社会に向けさまざまな研究テーマに取り組んでいます。また、各種部材や住宅部材の品質について検査・検証を行う「テクノセンター」、研究成果や技術情報の収集、タイムリーな情報提供を行う「木と住まい先端情報室」を併設し、先端技術の実用化に向けた取り組みを支えています。

以上

**参考資料へ**

**【本リリースに関するお問合せ先】**

住友林業株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 飯塚・佐藤  
TEL 03-3214-2270

**【御室桜の拝観に関するお問合せ先】**

総本山 仁和寺  
<http://www.ninnaji.jp/>  
TEL：075-461-1155